

平成 28 年度「大阪市英語力調査」（「英検 IBA」）に おける木津中学校の結果の概要と今後の取組について

大阪市では、生徒の英語力の充実と向上を図るため、大阪市教育振興基本計画^{*}に基づき、英語イノベーション事業^{*}の一環として、「大阪市英語力調査」（「英検 IBA」）を実施いたしました。この調査の目的は、生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、学校における英語の指導の改善を図ることです。

学習指導要領における中学校英語の目標は、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」と示されております。本調査で測定できるのは英語力の一部ですが、本校では、結果をふまえ、生徒の総合的な英語力向上を目指してまいります。

1 目的 (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。

(2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の改善、工夫に役立てる。

2 対象 大阪市立全中学校 生徒 1～3年生

※本校では 3年生 40人 平成 28 年 11 月 2 日(火)実施

2年生 43人 平成 28 年 11 月 4 日(金)実施

1年生 41人 平成 28 年 11 月 7 日(月)実施

3 内容

学年	英検 IBA の 種類	英検（目安）	テスト内容		満点 スコア
			リーディング問題	リスニング問題	
3年	テスト C	英検準2～5級レベル	35 題	30 題	1100 点
2年	テスト D	英検3～5級レベル	35 題	30 題	1000 点
1年	テスト E	英検4級・5級レベル	35 題	25 題	800 点

*大阪市教育振興基本計画…本市の教育振興のための施策に関する基本的な計画

*英語イノベーション事業…本市の英語教育強化を図るための事業

【様式2-A】

平成29年1月

平成28年度 「大阪市英語力調査」(「英検IBA」)の結果の概要と今後の取組 木津中学校

■ 調査内容

学年	英検(目安)	テスト内容		満点スコア
		リーディング問題	リスニング問題	
3年	英検準2級～5級レベル	35題	30題	1100点
2年	英検3級～5級レベル	35題	30題	1000点
1年	英検4級・5級レベル	35題	25題	800点

■ 調査結果

【「語い・熟語・文法」「読解」「リスニング」の値は分野別平均正答率(%)】

3年	学校平均スコア(点／1100点)	語い・熟語・文法	読解	リスニング	英検3級レベル以上の割合(%)
	733点	56.4%	56.3%	54.1%	45.0%
	市平均スコア(点／1100点)	語い・熟語・文法	読解	リスニング	英検3級レベル以上の割合(%)
	723.9点	54.0%	56.6%	51.1%	38.9%
2年	学校平均スコア(点／1000点)	語い・熟語・文法	読解	リスニング	英検4級レベル以上の割合(%)
	629点	58.0%	51.0%	59.6%	53.4%
	市平均スコア(点／1000点)	語い・熟語・文法	読解	リスニング	英検4級レベル以上の割合(%)
	650.6点	64.1%	58.4%	61.8%	61.4%
1年	学校平均スコア(点／800点)	語い・熟語・文法	読解	リスニング	英検5級レベル以上の割合(%)
	469点	51.2%	41.8%	56.0%	63.4%
	市平均スコア(点／800点)	語い・熟語・文法	読解	リスニング	英検5級レベル以上の割合(%)
	509.2点	63.7%	50.0%	61.6%	80.6%

■ 結果の概要と今後の取組について

学年	結果の概要と今後の取組
3年	「語い・熟語・文法」「読解」「リスニング」の3分野において、平均正答率が50%を上回っている。「リスニング」の分野の正答率が低いので、演習やC-NETの活用をしていく。また「語い・熟語・文法」の分野は、授業内の「大阪市中学校で学ぶ英単語集」を用いた小テストの効果が感じられるので、引き続き実施していく。
2年	「読解」の正答率が他2分野に比べて低い。日頃、長文を読み解いていく問題になれていない。読解力を上げるために、中程度の文章の読解から練習させる必要がある。「語彙・熟語・文法」については問題等の反復練習を、「リスニング」については、生徒の興味関心もひきやすいC-NETを活用し、伸ばしていくことを考えている。
1年	語い・熟語・文法の平均正答率が60%を下回っており、それが読解の正答率の低さにつながっていると思われる。「語い・熟語・文法」を繰り返し復習し、定着を図る活動をさらに増やす必要がある。「読解」も単語の意味認識ができれば理解できる。現在行っている本文読解の学習をより深める活動をしていく。「リスニング」の活動にはさらにC-NETを活用していく。